

「萌出障害に取り組むための視点と注意点 －基本的マネージメントから牽引装置の理解まで－」



医) イシタニ小児・矯正歯科クリニック
院長

石谷 徳人 (いしたに のりひと)

1998年3月 鹿児島大学歯学部卒業
1998年4月 鹿児島大学歯学部小児歯科学講座入局
2008年3月 イシタニ小児・矯正歯科クリニック開業
(鹿児島県始良市)
2018年4月 鹿児島大学歯学部臨床教授 現在に至る

〈資格・役職等〉
歯学博士／新潟大学歯学部非常勤講師
公益社団法人日本小児歯科学会 専門医指導医 常務理事
(広報委員会 委員長)
全国小児歯科開業医会 理事 (学術委員会 委員長)
成育歯科医療研究会 常務理事 (学術担当)
〈主な著書〉
時間軸を見据えた小児期からの咬合治療
(東京臨床出版 2014年6月)
早期治療－成長発育のエビデンスと治療戦略－
(クインテッセンス出版 2017年10月 ※邦訳・共著)
新・小児期からの咬合治療
(東京臨床出版 2018年秋出版予定)

小児歯科の日常臨床において、子ども達の歯列・咬合異常への対応は、大変重要な部分を占めています。これらの対応の基本は、歯の萌出現象を利用するものといっても過言ではありません。歯の萌出の調査研究で世界的に有名な小児歯科医モーリー・マスラー博士は「歯の萌出とは、発生部位から機能する位置まで、顎骨の中で起こる歯の生理的な移動である」と述べています。

成長発育期の包括的な口腔管理では、機能的かつ審美的な永久歯列・咬合の完成が目標となりますが、そこに至る道のりは必ずしも平坦なものではありません。特に永久歯の場合、「萌出障害」という言葉通り、長期間の萌出プロセスの中で機能的に咬合するまでには幾多の障害が待ち構えていることがあります。もちろん、経過観察のみで問題のない場合もありますが、中には埋伏歯となり、隣在歯の歯根吸収をきたすなどして、将来の咬合育成に大きく影響することもあります。ゆえに、かかりつけ歯科医は継続的な口腔管理の中で萌出障害を早期発見することが求められ、萌出遅延等が認められれば対応法を検討するとともに、自院で対応できない場合には各専門医と速やかに連携をとることになります。

また専門領域の立場から考えた場合、小児歯科医は早期発見の機会が多いといえますが、埋伏歯の開窓・牽引などの実践的な臨床対応では矯正歯科医や口腔外科医の間に埋没しつつあるとも言え、この分野における専門性の真価が問われているように思われます。誤解を恐れず申し上げれば、「小児歯科専門医は萌出障害の一連の臨床対応において質的に担保されている資格である」という評価を他科の先生方や国民の皆様からいただくために、さらなる研鑽を積む必要があるのではと考えております。

本講演では、“責任ある小児歯科専門医療の1つ”として永久歯の萌出障害への対応を行うにあたっての基本的な視点と注意点について、良好な経過の症例から反省症例までを提示しながら皆様と一緒に考えてみたいと思います。